

ドライバーの働きやすさを追求し成長 人材育成を進めながら将来の飛躍を見据える

小麦粉や砂糖などの食品輸送をメインに事業を展開している水野運輸(株)（水野浩利代表取締役）では、事故防止対策や労働対策などとともに、ドライバーにとって働きやすい職場づくりにこれまで努めてきた。グループ会社としてバス会社も保有している同社では、車両台数増加に伴い、現在本社・車庫の移転を検討。移転を機に職場環境のさらなる改善を進めるとともに、より質の高い輸送サービスの提供を通じ、取引先に一層信頼される運送会社への飛躍を目指している。



バスに合わせてカラーリングを変更したバルク車（手前）の前に立つ水野社長

■「3秒ルール」や「安全評価基準表」など 品質向上を図り独自性ある施策を次々導入

水野運輸(株)の歴史は、昭和26年に千葉市中央区で創業したのが始まりである。創業当初は量の製造を行っており、量の輸送から運送の仕事が始まった。その後、川崎製鉄千葉工場の操業開始とともに鉄関連輸送を行っていた時期があったほか、かつて川崎製鉄の敷地内にあった大手製粉会社との取引を70年ほど前に開始。現在同社では、小麦粉や砂糖などの食品輸送をメインに、大手自動車ディーラーの部品や書類等の社内便輸送も手がけている。

同社は水野社長の祖父によって創立し、2代目社長は水野社長の父親が務めてきた。水野社長は大学に進学し、「いずれ自分がこの会社を引き継ぐ」という漠然とした思いをもっていたものの、卒業後は大手自動車メーカーのディーラー営業マンとして4年間勤務。その後、27歳の時に同社に入社してからは、ドライバーを経て配車担当として辣腕を振るった。水野社長は、大手製粉会社の敷地内に同社が設置していた事務所で勤務していた時期があった。当時、別の運送会社10社ほどが大手製粉会社に対して取引を持ちかけていたが、大手製粉会社の担当者はその対応を負担に感じていたという。そこで水野社長は、古くから大手製粉会社と取引を続けてきた同社が運送会社との窓口役を務め、運送会社から手数料を徴収した上で、運送会社との対応を一手に引き受けた。これにより、大手製粉会社にとっても、また同社にとってもWin-Winの関係になることができ、両者間のさらなる信頼感醸成に繋がったという。

水野社長は社長就任前、地元青年会議所の活動にも積極的に参画しており、時には自社の仕事を後回しにしなければならなかった時もあったという。水野社長は、青年会議所の活動に参加している時でも自社の仕事を推進すべく、自分のプレーンを育て、自分が不在でも社業が回るしくみの構築に努めていた。そうしたなかで水野社長は40歳となり、青年会議所の活動から卒業することとなった。その後、水野社長が改めて自分の手帳を確認すると、これまで青年会議所の活動の予定で真っ黒になっていた手帳が、

3分の2ほど真っ白になっていたことに気付いたという。それとほぼ同時期に、「社長を引き継ぐとともに、グループのバス会社（ミズノ興業(株)）の経営もみてほしい」と先代社長から告げられたのを機に、水野社長は40歳で同社の3代目社長に就任した。

さて、同社がメインとしている小麦粉輸送では、小麦粉を大量に運ぶためのバルク車が使用されることが多い。製粉工場内での積み込みの際には、安全带やヘルメットを着用して落下防止措置を講じた上で、タンク上部にあるハッチを開け、チューブをタンクに繋いだ上で小麦粉を積載していく。一方で、荷卸しの際には圧縮空気を使って小麦粉をタンク外に排出するが、タンクに繋ぐ配管の長さが荷卸し場所によってまちまちであることから、スムーズに荷下ろしを行うためにはきめ細やかな圧力の調整が求められてくる。一方で、同社では、業界未経験で入社するドライバーが多いという。新人ドライバーに対しては、ベテランドライバーによる横乗り指導の際に積み下ろし作業に関する指導も行うほか、取引先が作成した積込マニュアルや納入マニュアルなどをもとに習熟を図り、積み降ろし作業に係る商品事故の未然防止に繋げている。ちなみに、新人ドライバーが入社してからひとり立ちするまでには、3か月ほどかかるという。

同社では、事故防止の観点から、ドライバーに対して運転時の「3秒ルール」を徹底させている。まず、走行時に前車が目印となる地点（電柱や横断歩道など）を通過したのと同時に3秒間数え、前車との車間距離確保を図る。数える際にも、同社では早く数えすぎないようにするために「101、102、103」と数えるように指導し、適切な車間距離確保に繋げている。また、右左折時や車線変更時には、ウinkerが3回点滅してから運転操作を行うよう指導しているほか、後退時には、左サイドミラーを目視して



水野 浩利
代表取締役



運転時の「3秒ルール」徹底を通じ、より安全性の高い運転操作の励行を促している



点呼執行者としての資格も持つ、水野社長の娘である穴澤夏実さん（左）



働きやすい職場への取り組みを続けてきた会社では、従業員たちの笑顔も非常に明るい

「101」、右サイドミラーを目視して「102」、バックモニターを目視して「103」と数えた上で後退するようにしている。今年からは新たな指導も取り入れ、一時停止線で停止した際には停止後に3秒数え、前方の道路状況を十分に確認した上で発進するようにしている。

「運転席の高いトラックは前方が良く見えることもあり、一時停止線で十分に停止しないで発進してしまうようなケースも見られます。「3秒ルール」を遵守することで、さらなる安全性向上に繋がっていきたいと考えています」（水野社長）

ところで、会社では365日体制で車両が稼働しているものの、ドライバーの運行体制を見ると、朝4～5時頃に出発して、午後3～4時頃に帰庫する形が一般的であり、もともとドライバーの労働時間はそれほど長くはなかったという。その上で、会社では有給休暇取得の徹底に取り組んでいるほか、日曜日出勤したドライバーに対しては翌週に振替休日を与えるなど、休暇を取得しやすい環境を整備している。

また、ドライバーの処遇改善を図るため、会社では令和5年11月に賃金改定・労働時間変更を実施した。

賃金改定では、変動給（手当・賞与）の割合を下げ一方、固定給（基本給）の割合をアップさせたことで、ドライバーの生活安定に繋がっている。また、手当については、会社では10年ほど前から、ドライバーが仕事ぶりに対して自己評価を行う「安全評価基準表」を毎月提出させ、管理職の評価も踏まえた上で手当額を決めるようにしている。安全評価基準表には、月ごとに定められる「目標」に対してドライバーが快く従っているかを記載してもらった上で、「安全・衛生・環境・確認・無事故」のそれぞれの項目で定められた事項について、ドライバーが守れたかどうかを回答してもらっている。基準表で取り上げた事項では、例えば「安全帯やヘルメット、安全靴を適切に身に付けている」など、会社のドライバーとして当たり前に行うべき内容を挙げており、ドライバーが日々の業務の中で行うべき作業項目を明確化して評価基準に取り入れたことで、ドライバーにとっても納得度の高い形で

人事評価が行われるようになった。

「多くのドライバーは、手取り給与の増額によってモチベーションがアップします。評価基準が明確化されることにより、安全確認作業や無事故への取り組みが積極的になり、評価項目を守ることが手取り給与の増額に繋がります。当社のドライバーとして求められる姿を明文化し、それに対して素直に応えてくれるドライバーには分かりやすい形で評価を行い、給与に反映していくことで、ドライバーのモチベーションアップに繋がっています。」

水野社長は社長就任以来、「自分が信用したドライバー以外、一人で外には出さない」と心に決め、人材育成に力を注いだ。また、「取引先を大事にして、何があっても信頼感を失うようなことはしてはならない」と、輸送サービス向上にも果敢に取り組んだ。そうしたこともあり、会社の業容は順調に拡大を続けてきた。また、高齢になり、荷役作業を負担に感じるようになったドライバーの受け皿として、バス会社も順調に成長。現在は、トラック51台、バス31台の陣容で事業を展開している。

業容拡大とともに車両台数が増加してきたことで、現在会社では車庫不足が大きな課題となっている。現在会社とバス会社の車庫は約2,000坪の広さとなっているが、現在これを約3,000坪の規模とするための移転計画が進んでいる。移転に伴い、自社のイメージアップに繋がるような新社屋の建設も計画しており、移転を通じて社内環境改善を進めていきたいとしている。

会社の3代目社長として20年のキャリアを積み重ねてきた水野社長は、現在千葉県トラック協会の副会長を務めるなど、業界の健全化とさらなる発展に向けて貢献を続けている。

「トラックドライバーの長時間労働改善と処遇改善は、我が国の物流を持続可能なものとしていくためには欠かせない業界全体の取り組みであることは確かです。当社としても、今後も知恵を絞りながら、取引先に対して引き続き安全・安心を提供していくよう努めていきたいと考えています」（同）

ホットにゆーす

■ドッグランで楽しそうに駆け回る 2頭の愛犬たちに癒される日々

水野社長は、天気の良い休日の午前には、愛犬を連れてドッグランに行くという。

水野社長は現在、トイプードルの「ロッキー」（1歳）とプードルとチワワのミックス犬「ペロ」（7歳）の2頭を飼育。ドッグランに行くと、はしゃぎながら他の犬たちと駆け回っているという。

「自宅の中にかわいらしい動物がいて、家の中が明るくなったように感じます。ドッグランで楽しそうに走り回っているうちの子たちを見ると、心が癒されます」（同）



ドッグランで愛犬との大切なひとときを過ごす水野社長

企業プロフィール

水野運輸 株式会社

代表取締役 水野 浩利

所在地 千葉県千葉市中央区今井3-12-11

従業員 64人（うちドライバー52人）

台数 51台